

看護系大学における SDGs の取り組み ～HP における情報発信の現状から～

高橋幸子
(Sachiko TAKAHASHI)

【要約】

《目的》国連が主導している SDGs は、2030年までに国際社会が達成すべき17のゴールと169のターゲットが示されている。大学教育においては、様々な人に学ぶ場を提供し、地域連携を行いながら社会貢献を既に行っている。日本でも多くの大学が SDGs の目標達成に向けて活動が広がりつつある。そんな中、看護系大学における看護教育の内容の多くが SDGs の目標達成に関連する内容と言って過言でない。看護系大学において、実際行っている教育と SDGs の関連について、社会に発信しているのかを明らかにする。

《方法》全国の看護系大学の HP (Home Page 以下 HP) から学科紹介において、SDGs に関する記載を確認する。総合大学の場合は大学紹介において、SDGs に関する記載を確認する。

《結果》看護系大学290校について、大学紹介の HP に SDGs の記載があった大学は、国立大学42校中23校、公立大学50校中6校、私立198校中24校であった。看護学科の HP に SDGs の記載があった大学は1校であった。

《結論》看護教育全体が SDGs と関係していることを認識していても、SDGs 目標達成に向けての活動として HP を活用し、社会に PR している大学はほとんど見られなかった。看護系大学において SDGs に対する新たな取り組みを探すのではなく、現在行っている教育を SDGs のゴールに紐づいていることを社会に周知するよう HP 等の活用が必要である。

キーワード：SDGs、看護教育、社会貢献

I. はじめに

SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標とは2001年に制定された MDGs (ミレニアム開発目標) の後を引き継ぐ形で、2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」であり、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標で、目標は17設定されている。(図1参照)

田中¹⁾によると、SDGs は先進国にも途上国にも共通のユニバーサルな開発目標であることが特徴である。実際、日本にとっても、教育、ジェンダー、エネルギー、成長・雇用、持続可能な都市、不平等の解消など重要な課題が含まれている。途上国に手を差し伸べるだけでなく、将来を見据えて先進国も対応してい

かなくは地球規模の問題には対処できないということである。実際に地方自治体では SDGs の達成に向けた取り組みが行われ、身近な生活圏の中でも SDGs の達成にむけられた政策が行われている。

日本において多くの大学に SDGs の活動が広がっている。看護学の分野においては講義内容が SDGs 達成に向けた内容とオーバーラップする内容が多い。現行のカリキュラムを SDGs の目標に紐付けている大学や新たに科目設定を行っている大学もあるが、学部(あるいは学科以下、学部には学科も含む)としての取り組みを世の中への PR をもっとすべきだと感じている。先行研究においても、看護学部における SDGs に関する取り組みはほとんどない。各学部の取り組みの詳細を取り上げることは難しい。そのため、今回は看護系大学(学部・学科を含む)における SDGs の取り

組みを社会に向けて発信している現状を報告する。



図 1

II. 調査方法

旺文社教育情報センター²⁾によると、2022年度の日本の大学数は790校となっている。看護学科は全大学集計では297校（国公立大学）となり全国に設置されている。297校にはキャンパスが2県にまたがっている大学5校（本拠校をカウントと文部省管轄外の大学校2校が含まれているため、7校を除いた、290校を対象とした。

各大学のHPを検索し、大学紹介の初めの画面にSDGsの取り組みに関する記載があるか、単科大学でない場合は看護学科（大学によっては、群等の名様もある）紹介の初めの画面にSDGsの取り組みの掲載があるかを調べた。

倫理的配慮について、今回の調査は人を対象としておらず、HPとして一般公開されている内容を対象に検討を怠った。すでに公表されている論文を対象とし、検討を行った。SDGsロゴの使用に関してはSDGsを支援するための社会資料のため、許可は必要とされていない。

調査期間は2022年8月20～25日

III. 結果

先述の290校のHPをチェックした結果、大学紹介のHPにSDGsの記載があった大学は、国立大学42校中23校、公立大学50校中6校、私立198校中24校であった。単科大学でない場合、看護学科のHPにSDGsの記載があった大学は無かった。

大学のHPの形式として、トップ画面に掲載されている見出しが、全ての学科の画面で見ることができる（リンクしている）ものは除いた。

看護学の単科大学で大学のHPにSDGsの取組が紹介されている大学は1校であり。結果、看護学部としてSDGsに取り組んでいる記載があった大学は1校（A大学）である。

A大学では、各目標に関する教員の研究テーマや教育活動・社会貢献などの取り組みが書かれている。このような活動を掲載している大学は他には無く、大学としてのSDGsに対する意欲の高さがうかがえた。

大学としてSDGsに取り組んでいるが、内容を見ると看護学科との連携が書かれていない大学がほとんどであった。17目標で看護の取り組みをリンクさせて表記してある数少ない大学を紹介する。B大学では、目標3に関して、地域の総合病院と大学との看護学教員における協力協定の締結を行っていた。

大学や学科の取り組みとしてSDGsは掲載されていなかったが、看護学部長の挨拶にSDGsに関する記載のあった大学が1校あった。C大学の看護学部長の挨拶には、「持続可能な社会を健康の側面から実現する看護人事を育む」とされ、文頭から“SDGs”という言葉を使用してメッセージを述べられていた。他大学の学部（あるいは学科）長の挨拶にSDGsの文言が使用されている大学は無かった。







IV. 結論・考察

SDGsは国の政策であり、その取り組みは新しい壮大なものではなくてはならないのではと、勝手に敷居を高くしている人たちも多いのではないかと。現に、全国の看護系大学の中でのSDGsに取り組むたいがどうしたらいいのかわからないと言った声もあると聞いている。

日本看護協会では、日本看護協会SDGs宣言³⁾として「公益社団法人日本看護協会は、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）を、本会の看護政策とこの推進に向けての取り組みにつなげ、専門職としての看護の力で健康な社会を実現することに努めて参ります。」と表明している。

職能団体としての看護協会も上記の宣言をしている通り、看護教育においてもSDGsに関して認識を高めた取り組みを行なっていないとてはならない。また、一般社団法人日本私立看護系大学協会（私立看護系大学が多く入会して）では2021年度国際交流委員会研修会として「看護教育にいかんSDGsを取入れるか」をテーマにしたセミナーも実施している。このように、

看護協会 SDGs 宣言
令和4（2022）年度重点政策とSDGs目標

重点政策 1 全世代の健康を支える看護機能の強化 1-1 看護提供体制の構築 1-2 地域における健康・療養支援体制の強化に向けた取り組み 1-3 地域における看護職の確保と活躍推進	
重点政策 2 専門職としてのキャリア継続の支援 2-1 看護職の働き方改革の推進 2-2 看護職のキャリア構築支援 2-3 看護師の生涯学習支援体制の構築	 
重点政策 3 地域における健康と療養を支える看護職の裁量発揮 3-1 看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト／シェアに関する事業 3-2 特定行為に係る看護師の研修制度の活用推進 3-3 資格認定3制度の養成戦略の検討	 
重点政策 4 地域の健康危機管理体制の構築 4-1 新型コロナウイルス感染症への対応 4-2 感染症のパンデミック及び災害時の看護支援活動に関する事業 4-3 本会のBCP（事業継続計画）の策定	

3) より筆者作成

図 2

看護系大学がSDGsに関して興味がわけていない。しかし、大学で実際に行っている教育とSDGsの紐づけに関する認識が多少弱いことが今回のHP上の掲載に至っていないことと関連があるのではないかと考える。

冷静に考えれば、看護教育そのものはほとんどがSDGs目標に紐付けられるはずである。SDGsの目標は地球規模で達成を目指している大きなことである。しかし、看護実践として日々看護師が行っていることは、対象者を目の前にした個別的な看護であっても最終的にはSDGsの目標につながっていることを看護師や看護教員が自覚するべきである。

HPのトップに掲載されていなくても、シラバスにはSDGsに関連した内容や取り組みが書かれているケースもある。しかし、看護学科の全ての科目のシラバスの内容を確認することは、今回はできなかった。いくつかの大学のシラバスを確認してみると、看護学科において、取り組みが行われている。国際看護学の分野においては、途上国の保健衛生や医療の発展に受けた仕事に向けた活動に関して講義が行われている。そして、将来SDGsの目標に関係する仕事を目指している学生もいる。

ICN（国際看護師協会）においても、看護師の定義⁴⁾「看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどの

ような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体である。看護には、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれる。また、アドボカシーや環境安全の促進、研究、教育、健康政策策定への参画、患者・保健医療システムのマネジメントへの参与も、看護が果たすべき重要な役割である。」と言われている。

昨今の新型コロナによるパンデミックで、医療者に課せられた仕事は想像を超えたものだった。人々の命を守るという医療者の使命が疾病を治す治療だけでなく、目に見えない存在（ウイルス等）からの予防が急に重要か見直された機会にもなった。自分を含め家族や隣人と身近な人たちの健康維持を改めて医療者のみならず全ての人々が感染を意識した生活を余儀なくされている。看護教育の場のみでなく、臨床の場でも、持続可能な未来に向けた行動を看護師は既に行っていることを自覚すべきである。自分たちの行動を振り返りSDGsの視点に紐付けて考え、それを看護教育の中でのとしての取り組みとし社会に向けてPRすることも看護学としての発展に寄与するのではないかと考える。

医療者は様々な医療物品を使用する。感染予防に関しては、コロナ禍の前から医療現場では徹底されている。感染防御対策においてディスプレイの物品が

使用され、感染力の強い中ではさらに使用物品が多くなる。必要時衛生材料を使用する場合でも、一度は物品の原材料は何か、製造過程における人々への影響、使用後の廃棄などを考えてみることはSDGsにつながることになる。

ゴム製品、プラスチック製品、製造における電力や水、使用后一般ごみと区別する医療廃棄物、焼却による有害物質の発生、自然に帰らないプラスチック、医療者の身近な物について考えるだけでも教育の一環になるはずである。

このように、看護学の教育の現場では身近な場面からも学生はSDGsの目標に向けて考えることができる。教員は身近なところに教材はたくさんあることも認識すべきである。

V. おわりに

看護教育の内容はほとんど、SDGsの目標へ紐付けられることを教員として認識して、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて看護として果たす役割に目を向けてくべきである。

新しい企画を考えなくても、現在行っている教育内容をあらためて見直すことも大切である。

全国の看護学科のHPにSGDsの取り組みが乗ることは、看護の学問分野としての発展にもつながるであろう。患者に優しく、地球にも優しい看護師の育成を目指したい。

本研究は、開示すべき利益相反関係にある企業・組織・団体等はない。

【文献】

- 1) 田中晴彦：SDGsカリキュラムの創造，学文社，(2021)
- 2) 日本の大学数2022年度は790大学 | 旺文社教育情報センター
https://eic.obunsha.co.jp/pdf/educational_info/2022/0621_1.pdf（閲覧日2022年8月18日）
- 3) 日本看護協会のSDGsに向けた取り組み
https://www.nurse.or.jp/home/about/jna_sdgs/index.html（閲覧日2022年8月30日）

(2022年9月28日受付、2022年12月6日受理)

Sustainable development goal initiatives at nursing universities: the current state of information dissemination on home pages

Sachiko TAKAHASHI

【Abstract】

Purpose: The sustainable development goals (SDGs) established by the United Nations include 17 goals and 169 targets to be achieved by the international community by 2030. University educators are already contributing to society by providing various people with a place to learn and by collaborating with local communities. In Japan, many universities are expanding their activities to achieve the SDGs. It is no exaggeration to say that the content of nursing education at nursing universities is entirely related to achieving the SDGs. We set out to clarify whether nursing universities are aware of the relationship between the education they are actually providing and the SDGs.

Methods: At the websites of nursing universities nationwide, departmental introductions were checked for descriptions of the SDGs on their home pages (HPs). In the case of comprehensive universities, each university's introduction on its HP was checked for descriptions of the SDGs.

Results: Of 290 nursing universities, 23 of 42 national universities, 6 of 50 public universities, and 24 of 198 private universities listed SDGs in the introduction on their website. At only one university's website did the nursing department's introduction describe the SDGs.

Conclusions: Although many institutions recognize that nursing education as a whole is related to the SDGs, no university is promoting its activities to achieve the SDGs. Instead of seeking new SDG initiatives, nursing universities must make use of their websites and other outreach to inform society about how the education currently being provided is linked to the SDGs.

Keywords: SDGs, Nursing education, Social contribution

Department of Nursing, Faculty of Nursing, Mejiro University